

平成 28 年度 津島保健所災害医療部会等の開催状況について

1 大規模災害時における医療提供体制整備のための研修会

(1) 実施日

平成 28 年 7 月 20 日 (水)

(2) 実施場所

津島市民病院 2 階 講義室

(3) 研修内容

講演 「南海トラフ地震にどう備えるか

－海部地域の被害想定を踏まえた医療対策を考える－」

講師 愛知医科大学 災害医療研究センター

助教 小澤和弘氏

2 大規模地震時医療活動訓練

(1) 実施日

平成 28 年 8 月 6 日 (土)

(2) 実施場所

本県等を被災県と想定した全国各所

(海部圏域内：災害拠点病院、津島保健所等)

(3) 訓練内容

南海トラフ地震を想定した内閣府主催の医療活動訓練の中で、当圏域では、災害拠点病院における DMAT 支援、SCU への搬送訓練等、保健所における地域災害医療対策会議の設置・運用訓練を実施

3 津島保健所地域災害医療部会ワーキング

(1) 実施日

平成 28 年 8 月 22 日 (月)

(2) 実施場所

津島保健所 2 階 会議室

(3) 検討内容

南海トラフ地震被害想定について (別添資料)

大規模地震時医療活動訓練の検証

大規模災害時における関係機関の体制整備についてのアンケート項目

(今後の予定)

津島保健所地域災害医療部会

平成 28 年 11 月 21 日 (月)

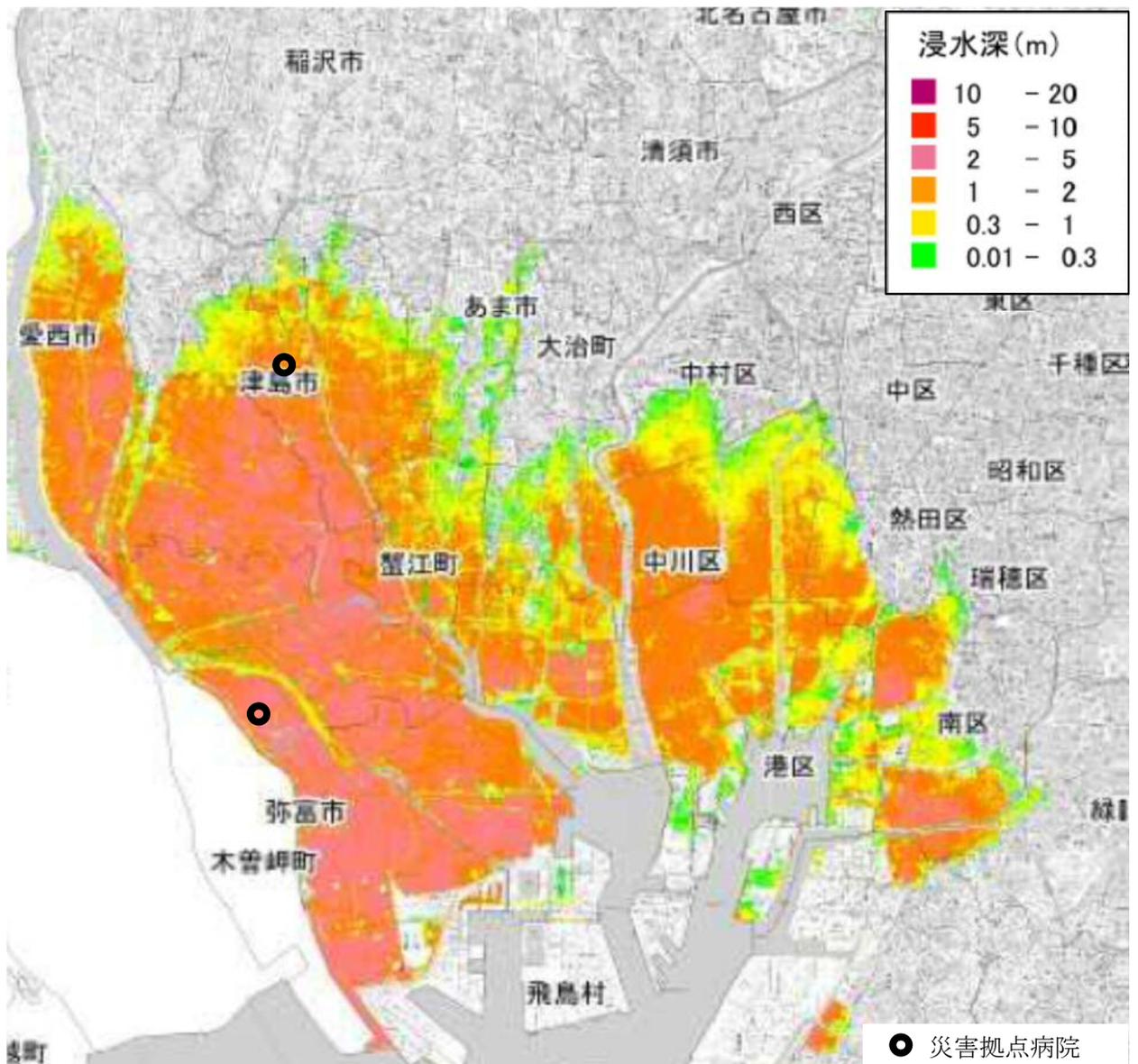
海部総合庁舎

平成23年度～25年度

愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果（抜粋）

愛知県防災会議地震部会 平成26年5月

浸水想定域「理論上最大想定モデル」による想定（津波ケース①）



【理論上最大想定モデル】

- 南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものである。（※国が平成24年8月29日に公表した「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波モデル」。）委託業務の報告書では、「最大想定モデル」と表示している。
- 本県の地震・津波対策を検討する上で、主として「命を守る」という観点で補足的に参照するものである。

（解説）

国は、戦後最大の甚大な被害をもたらした平成23年3月の東日本大震災を教訓として、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波として、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定し、「命を守る」ことを基本として、被害の最小化を主眼とする「減災」の考え方に基づいて、対策の基本的な方向性を示している。

本県においても同様に、特に「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波モデル「理論上最大想定モデル」を設定した。

この震源及び波源モデルは、平成24年8月29日に内閣府から公表された最大クラスの地震・津波モデルと同じものである。